

熱中症による救急搬送 の状況及び予防啓発の 取組について

救急企画室

1. はじめに

消防庁では、平成20年から全国の消防本部を対象に熱中症による救急搬送人員の調査を行っており、調査開始以降最多の救急搬送人員を記録した平成30年には全国で約95,000人の方が熱中症により救急搬送されています。調査は、例年5月1日を含む週の月曜日から9月30日を含む週の日曜日までの期間で実施しており、今年度は、4月29日から開始し、8月11日までに69,423人(※速報値)の方が熱中症で救急搬送されました。今年は6月、7月ともに調査を開始して以降、それぞれの月で過去2番目の搬送者数を記録し、例年と比較しても多くの方が熱中症により搬送されております。

2. 熱中症による救急搬送状況

① 年齢区分ごとの救急搬送人員(図1)

4月29日から8月11日までの熱中症による救急搬送人員の合計69,423人のうち、高齢者が40,802人(58.8%)と最も多く、次いで成人21,894人(31.5%)、少年6,255人(9.0%)などとなっています。約6割を占める高齢者は暑さやのどの渇きを自覚しにくいなど体の変化に気づきにくい傾向があるため、周囲の方がこまめに声をかけて、水分補給や暑さ対策などの予防行動を促すことが大切です。

図1 年齢区分別(構成比) 令和6年 総搬送人員69,423人

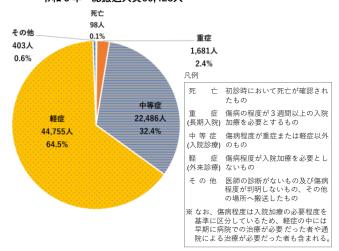


凡例
新生児 生後28日未満の者
乳幼児 生後28日以上満7歳未満の者
少 年 満7歳以上満18歳未満の者
成 人 満18歳以上満65歳未満の者
高齢者 満65歳以上の者

② 傷病程度ごとの救急搬送人員(図2)

4月29日から8月11日までの熱中症による救急搬送人員の合計69,423人のうち、軽症が44,755人(64.5%)と最も多く、次いで中等症22,486人(32.4%)、重症1,681人(2.4%)、死亡98人(0.1%)などとなっており、例年と比べ構成比に大きな変化はありませんでした。熱中症の症状は、年齢や持病など傷病者の背景の違いにも影響を受け、刻々と変化します。中には、短時間で重篤な状態に陥る場合もありますので十分に注意が必要です。

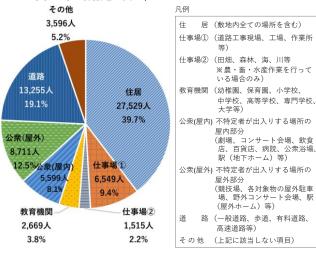
図2 初診時における傷病程度別 令和6年 総搬送人員69,423人



③ 発生場所ごとの救急搬送人員(図3)

4月29日から8月11日までの熱中症による救急搬送人 員の合計69,423人のうち、住居が27,529人 (39.7%)と 最も多く、次いで道路13,255人 (19.1%)、公衆出入場 所 (屋外) 8,711人 (12.5%)、仕事場①6,549人 (9.4%)、公衆出入場所(屋内)5,599人 (8.1%)など となっており、例年と比べ構成比に大きな変化はありま せんでした。

図3 発生場所別(構成比) 令和6年 総搬送人員69,423人



消防の動き '24年 9月号 -8-



④ 都道府県別の合計(図4)

4月29日から8月11日までの熱中症による救急搬送人員の合計69,423人のうち、東京都が6,050人と最も多く、次いで大阪府5,103人、愛知県4,611人、埼玉県3,951人、神奈川県3,495人となっています。また、昨年度と比較

(5月1日から8月11日) すると、7,167人の増加 (+11.5%) となりました。

⑤ 週別の推移(図5)

救急搬送人員は4月29日から300~2,000人前後で推移 していましたが、7月1日の週から9,000人以上に増加し、 特に、7月22日の週及び7月29日の週は12,000人以上と なっています。

図4 都道府県別熱中症による救急搬送人員 前年同時期との比較(累計:4月29日から調査開始)

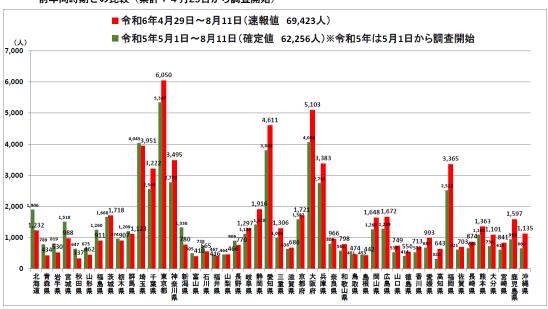
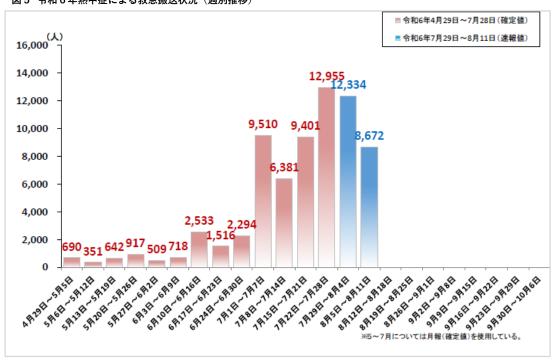


図5 令和6年熱中症による救急搬送状況(週別推移)





3. 全国消防イメージキャラクター「消太」を活用した熱中症予防広報の実施

消防庁では、熱中症予防啓発として従来から、熱中症による救急搬送人員の調査と公表、「ポスター」や「動画」、「リーフレット」の作成、X(旧ツイッター)による情報発信などを通じ、住民の皆様に広く注意喚起を図るとともに、全国の消防本部が行う予防啓発活動を支援しております。

今年度は、熱中症の予防法や熱中症になりやすいとされるこどもや高齢者への呼びかけに加えて、熱中症特別警戒アラート発表時の注意喚起をテーマにした、熱中症予防啓発ポスターを作成しました。



【ポスター】



【動画】

4. 熱中症予防のポイント

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予 防することが可能です。以下の項目を心がけて下さい。

- 涼しい服装、日傘や帽子で暑さを避けましょう。
- のどが渇いていなくてもこまめに水分補給をしましょう。
- 部屋の温度に注意し、エアコンや扇風機を上手に使いましょう。
- 熱中症警戒アラート発令中は外出をできるだけ控え 暑さを避けましょう。
- 夜間も熱中症に注意が必要です。睡眠前の水分補給を心がけましょう。

【参考】熱中症予防情報サイト 普及啓発資料 (環境省) https://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_pr.php

5. おわりに

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。また、周囲の気遣いで熱中症になりやすいとされるこどもや高齢者を守ることができます。 消防庁では、全国の消防本部と連携をとりながら、引き続き熱中症予防啓発に努めていきます。

消防庁熱中症情報

https://www.fdma.go.jp/disaster#anchor--07

※ 熱中症予防啓発のコンテンツは、このURL内に掲載しています。

問合せ先

消防庁救急企画室 竹田、門口、坂上 TEL:03-5253-7529